

今週（5月20日から5月24日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して調達ニーズの強い展開が続いた。日銀当座預金残高は390兆円台後半で推移した。無担保コールO/Nは、邦銀を中心に調達ニーズが強く、▲0.086～▲0.035%近辺での出会いとなった。無担保コール加重平均レートは、▲0.068%から始まり、週後半にかけて▲0.04%台へと上昇した。ターム物は、1、2W物を中心に▲0.05～▲0.04%近辺で複数の出会いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは24日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,744億円（期落ち額3,003億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.095～▲0.07%程度のレンジで推移した。

SC個別銘柄では、5年132～139、10年336～354、20年162～168、30年54～62、40年9～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週までの入札ラッシュを終え、ファンディングレートが高止まりとなる中、動意のない閑散なマーケットとなった。出会いは3M～1Y物で▲0.150%近辺と、全般的に小甘い水準で推移した。

21日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.008%、按分落札利回り較差+0.006%と、引け値の低い銘柄の在庫調整の売りからか小甘い結果となった。

24日に実施された、発行・償還日ともに海外市場の休日となる3M物の入札は、WI取引において▲0.155～▲0.153%で出会ったものの、平均落札利回▲0.1499%、按分落札利回▲0.1423%とWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.150～▲0.147%出会いと底固く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、鉄鋼・小売・不動産・その他金融業態等で大型案件が実施され、週間償還総額3,500億円程度に対して、週間発行総額8,500億円程度と大幅な発行超のマーケットとなった。市場残高は週を通して19兆円台後半と横ばいで推移した。発行レートは0%以上のレートでは投資家の購入意欲が旺盛で、レート上昇余地が限定的であることから、引き続き0%近辺での狭いレンジでの出会いが中心となっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/20 (月)	21,301.73	△ 0.050	110.17	△ 0.068	△ 0.090	3,967,500
5/21 (火)	21,272.45	△ 0.050	110.15	△ 0.065	△ 0.094	3,965,400
5/22 (水)	21,283.37	△ 0.055	110.51	△ 0.058	△ 0.086	3,979,400
5/23 (木)	21,151.14	△ 0.065	110.22	△ 0.049	△ 0.086	3,972,400
5/24 (金)	21,117.22	△ 0.075	109.71	△ 0.043	△ 0.082	3,980,000

来週（5月27日から5月31日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/27 (月)	T20サミットにおいて黒田総裁講演				New York祝日(Memorial Day) London祝日(Spring Bank Holiday)
5/28 (火)	4月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 4,000億円 5/29発行			3月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 5月の米CB消費者信頼感指数
5/29 (水)	日本銀行金融研究所主催2019年国際コンファレンスにおいて黒田総裁講演				
5/30 (木)	静岡県金融経済懇談会において櫻井審議委員講演	2Y 20,000億円 6/3発行			1-3月期の米GDP改定値
5/31 (金)	4月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 5月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 4月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 4月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 4月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 4月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 42,800億円 6/3発行			4月の米個人所得・消費支出 5月のシカゴPM景況感指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
5/27 (月)	700	▲ 4,600	▲ 3,900	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 3,000 ▲ 200	2,700 1,000 400	1,000	▲ 2,900	TB3M発行▲42800償還43400 流動性供給▲4000 国有林野事業借入▲600期日500
5/28 (火)	0	11,000	11,000				0	11,000	地方貸し
5/29 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	40Y発行▲4000
5/30 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
5/31 (金)	▲ 900	▲ 600	▲ 1,500	CP買入		2,000	2,000	500	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 1,200	▲ 200	▲ 1,400	—	▲ 3,100	6,100	3,000	1,600	

5/27は日銀予想、5/28以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、28日に財政投融资資金の貸付けによる余剰が見込まれる。無担保コールO/N加重平均レートは、引き続き高い水準で推移する展開が予想される。レポ市場は、GC T/Nは月末を挟むものの、▲0.10～▲0.05%と今週よりやや高めのレンジが予想される。短国市場は、31日に3M物の入札が実施予定となっている。需給環境のレート水準への影響など、市場動向が注目される。CP市場は月末を中心に賞与や税対応などの資金需要が見込まれることから、CPの大量発行が予想され、市場残高も20兆円台を回復すると考えられる。また、28日はCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。

主要なイベントとしては、海外で30日に1～3月期の米GDP改定値が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入